

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

事故概要:

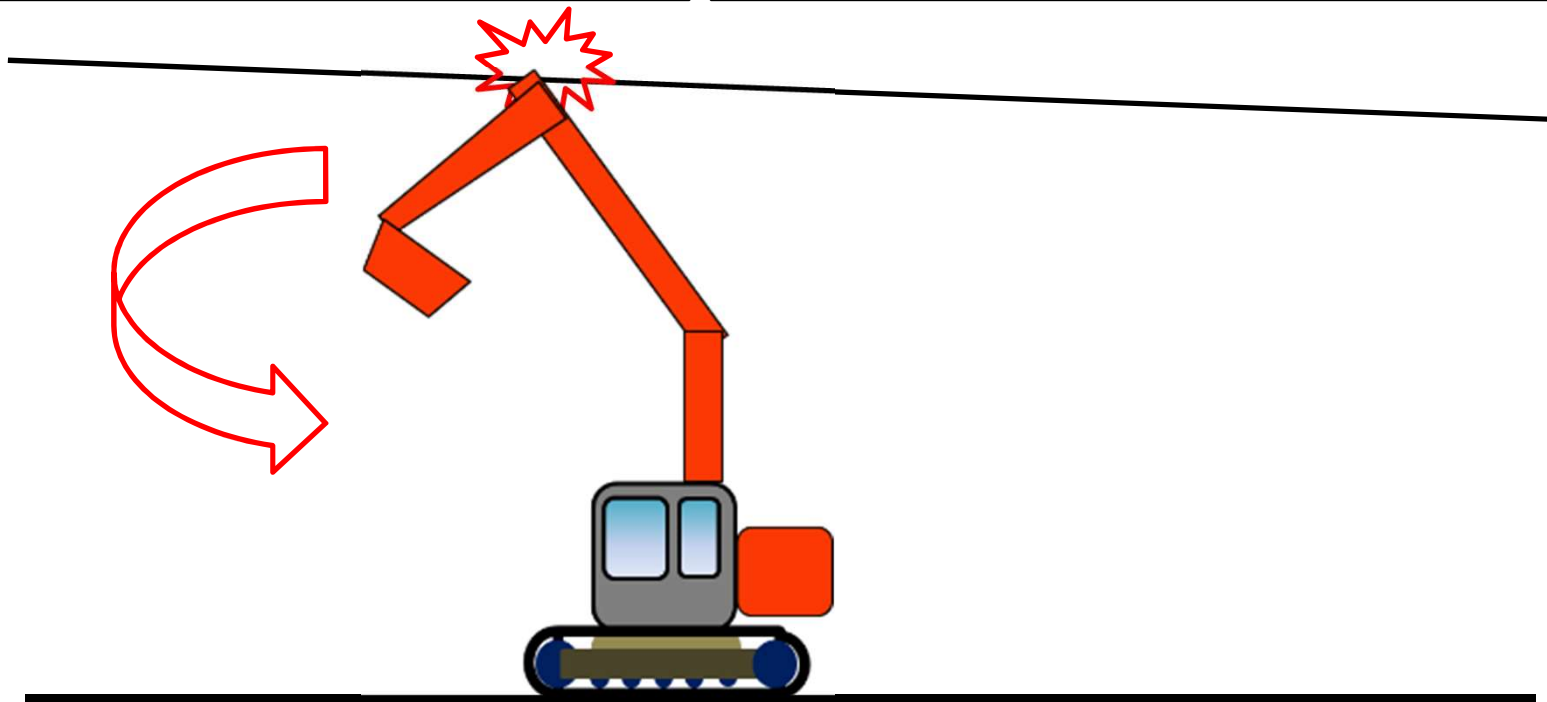
工事用道路(仮設道路)に敷設してあった敷鉄板が、ダンプの通過によりずれていたため、バックホウ(0.7m³級)を用いて、敷鉄板の位置を元に戻そうとしていたところ、架空線の存在を忘れ、アームを上げたまま回転したため、架空線に引っ掛けて電柱を2本折損させた

事故原因:

- ・監視人が不在にも関わらず作業を行った

改善対策:

- ・監視人誘導のもと作業を行うよう徹底する



分類:敷鉄板、BH吊

被害状況:電柱2本折損。復旧にあたり5軒3時間停電

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（交通事故）

【事故概要】

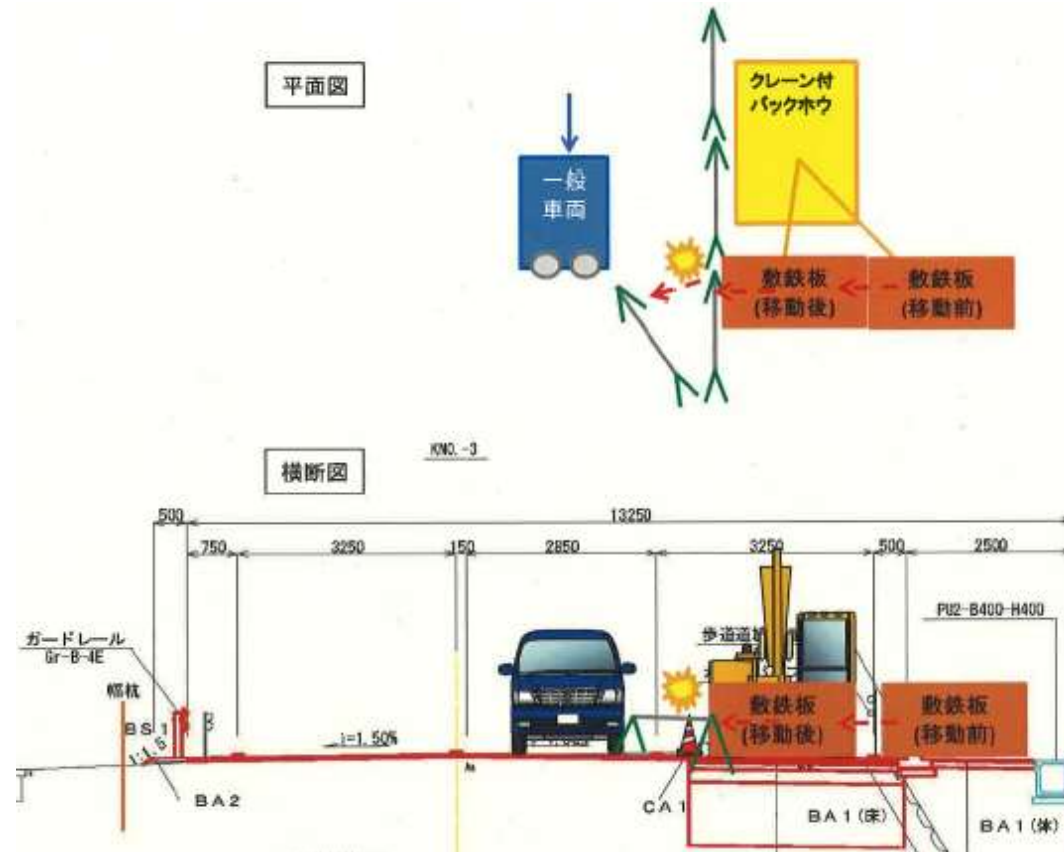
敷鉄板を撤去するためクレーン付きバックホウで吊り込み旋回した際、歩道と車道との境界に仮設設置していた単管バリケードに吊荷が接触、車道側に押し出された単管バリケードが通行車両1台に接触、損傷させた。

【事故原因】

- ・慎重な操作を怠った
- ・オペレーター単独で吊荷作業を実施していた

【改善対策】

- ・地切時の吊荷状況確認及び慎重な操作を徹底する
- ・監視員、誘導員等を配置する
- ・単管バリケードの転倒防止を図る



【分類】敷鉄板、BH吊

【被害状況】公衆物損 通行車両1台

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（挟み込み事故）

【事故概要】

覆鋼板の撤去作業に際し、作業員がダンプに積み込んだ覆鋼板からワイヤーを外す作業中にも関わらず、バックホウのオペレーターはワイヤーが取り外されたと思い込み、アームを引き上げてしまったことにより作業員の右手がワイヤーとの間に挟まれ負傷した。

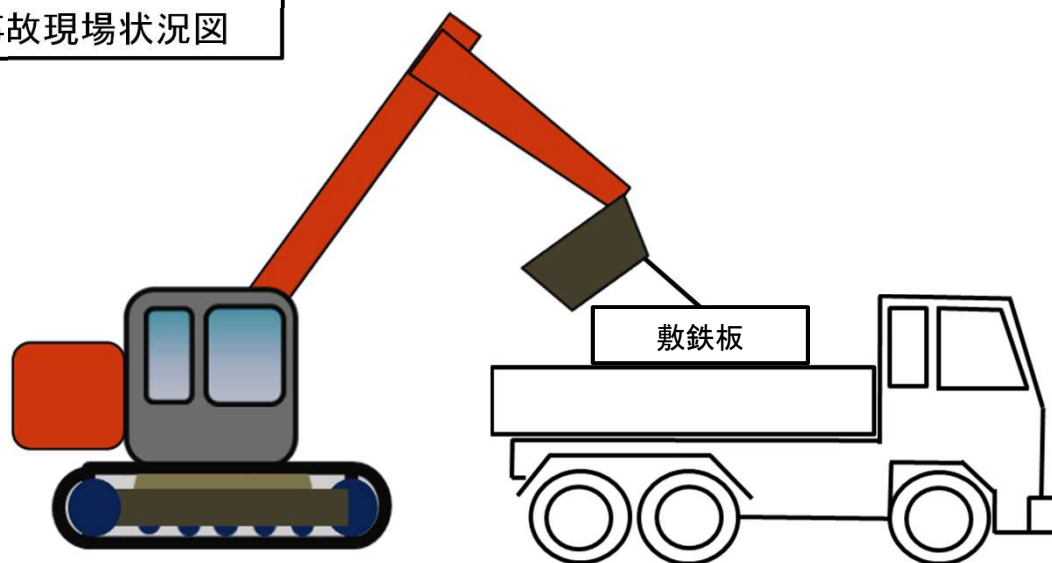
【事故原因】

- ・玉掛者（被害者）を合図者として作業していたが、作業完了の合図を出していないにも関わらず、バックホウのオペレーターは取外作業が完了したと思い込み、バックホウの操縦を再開したこと。
- ・慣れと思い込みによる合図、連携不足だった。

【改善対策】

- ・玉掛者の作業が完了するまでは重機運転は停止し、玉掛者が離れたことを確認して重機運転を開始する。
- ・重機運転者から死角又は視認しにくい箇所での作業については、重機運転者と玉掛者の双方を確認できる位置に合図者を追加配置する。

事故現場状況図



【分類】敷鉄板 BH吊り

【被害状況】業者人身 右中指及び右示指開放骨折